

# 生涯教育研修活動報告書

一般 検査研究班

1 実施日時： 令和3年10月8日 19時00分～20時00分

2 会場： Web開催 点数： 専門 — 20点

3 主題： 自宅で鏡検実習①！ ～あなたのパソコンが顕微鏡に!?(血球編)～

4 講師： 小針 奈穂美 (埼玉医科大学病院)  
柿沼 智史 (川口市立医療センター)

5 協賛： なし

6 参加人数： 会員 111名 賛助会員 0名 非会員 0名

7 出席した研究班班員：藤村和夫 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒  
渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己

## 8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、例年対面式で行っている尿沈渣鏡検実習が Web 開催にて実施された。第1弾として血球類（非上皮細胞類）をテーマに、実際の鏡検像を動画で撮影したものを供覧することで、より実際に近いシチュエーションにての研修会を行った。

まず、小針氏より尿中に出現する赤血球について非糸球体型赤血球および糸球体型赤血球の分類や実際の症例を交えた鑑別ポイントについての講演があった。非糸球体型赤血球か糸球体型赤血球かを判定する上で重要な鑑別ポイントは、内腔の穴の大きさと膜の均一性であり、前者は穴が狭くて均一性が保たれ、後者では穴が広くて不均一な形態を示す。しかしながら、非糸球体型赤血球である膜部顆粒成分凝集状脱ヘモグロビン赤血球については内腔面が広く開いていても、赤血球膜上に均一な顆粒成分が観察される特徴を理解することも重要である。症例においては7症例提示があり、糸球体型赤血球の有無のみならず、形態的に類似する酵母様真菌やビスケット状のシュウ酸カルシウム結晶との鑑別について供覧と解説があった。実際の鏡検では赤血球と類似成分が混在して見られるケースも多々あることから、赤血球に限局しないマクロな観察視点も重要である。

次に、柿沼氏より尿中に出現する白血球について各分画の特徴と実際の鏡検像を交えた鑑別ポイントの講演があった。尿中の白血球の大部分は好中球であるが、その形態と染色性から生細胞と死細胞に分類される。生細胞は活動性の高い好中球であり、棒状やアメー

バ状の形態を呈し、染色性は不良である。中でも、細胞質内顆粒の運動を認める好中球は輝細胞と呼ばれる。一方、死細胞は染色性が良好であることが特徴であり、細胞形態のみならず、染色性も踏まえた総合的な鑑別が重要である。他、N/C 比が特徴的なリンパ球や馬蹄形核を有する単球、精子を貪食した大食細胞の供覧と解説があった。白血球においても形態的に類似する成分が複数存在し、頻度の高い成分として尿細管上皮細胞やトリコモナス原虫が挙げられる。症例では、鞭毛の運動性を認めるトリコモナス原虫との鑑別について解説があり、白血球の出現背景の推察とともに注意深い観察、評価が重要であることが提示された。

今回は現地での鏡検実習に替わる尿沈渣像の動画供覧が主体の研修会であったが、微動ねじの操作に伴う細かな観察や動的な成分の観察についても共有ができ、静止画に留まらない新たな試みも評価できた機会であった。

各細胞の鑑別ポイントを再確認するとともに、日常業務に活かしていきたい。

提出日 2021 年 11 月 1 日

文責：佐々木菜緒